



名古屋大学
医学部附属病院

NCIP募集説明会



名古屋医療情報学プログラム

(Nagoya Clinical Informatics Program/NCIP)について

名古屋大学医学部附属病院

メディカルITセンター

2025.2.20

1. なぜ今、医療情報学プログラムなのか
2. NCIPの概要
3. NCIP講義詳細
4. 2024年度振り返り
5. 2025年度開講のご案内
6. 修了認定について
7. スケジュール
8. 質疑応答

1. なぜ今、医療情報学プログラムなのか

医療情報学の広範な活動領域

医療情報および関連領域

情報・データの統合

診療情報、ゲノム情報、ライフデータ、ヘルスデータ

専門領域の展開

Bio Medical Informatics、臨床情報学、ポピュレーション・ヘルス情報学、薬剤情報学、看護情報学等

課題解決への取り組み

医療情報システム・臨床データベースの側面、社会的側面、倫理的側面等

次世代医療情報システム

- ・医療情報システムと臨床疫学等との架け橋
- ・価値を生み出す質・構造・粒度をもったデータの創生
- ・クオリティ・インディケータの情報化
- ・情報化時代に適した医療記録法制
- ・医療の質の向上、診療現場の負担軽減につながるシステムなど

健康医療情報基盤

- ・電子カルテシステムと患者レジストリ・臨床DBのデータ連携
- ・健康医療情報と介護福祉情報をつなぐ患者エンゲージメント的包括ケアシステム
- ・EHRとPHRの活用と評価
- ・ビッグデータ解析に適したセンシング・収集など

医療ビッグデータの解析

- ・医療情報の二次活用の推進
- ・複数DBを連結
- ・医用人工知能技術を開発するためのデータ基盤と共同利用のあり方
- ・医用人工知能アプリケーションの開発と社会実装の促進
- ・医用人工知能の普及に向けた社会的課題の検討

医療情報セキュリティ

- ・サイバーセキュリティを考慮した情報基盤・運用体制の構築
- ・大規模データ解析におけるセキュリティ・トラストの担保
- ・医療情報システムの災害時運用体制の確立
- ・サイバーセキュリティ性能・技能の充実

医療情報人材の育成

- ・医療情報領域の次世代を担う研究者および社会医学系専門医の養成
- ・医療分野のCIOおよびCISOとしてのスキルをもつ人材の育成
- ・医療情報基盤の整備からデータ利活用の実践までを担える人材の育成

1. なぜ今、医療情報学プログラムなのか

医療情報学の広範な活動領域

これらをカバーする包括的な人材育成の必要性

- 医療情報学は非常に広範な領域をカバーしている
- それぞれの領域で専門的な知識・スキルが必要
- 体系的な学習の機会が重要

NCIPはこれらの包括的な学習ニーズに応えるプログラムである

2. NCIP概要



★ 2024年4月:名古屋医療情報学プログラム (Nagoya Clinical Informatics Program/NCIP) が名古屋大学医学部に開設

(後援: 日本医療情報学会(JAMI) / 一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会(JAHIS) / 一般社団法人 プロジェクトマネジメント協会(PMI)日本支部 / 日本製薬工業協会(JPMA) / 一般財団法人 医療情報システム開発センター(MEDIS-DC))



★ 文部科学省の履修証明制度に基づいた リカレント / リスキリングプログラム

→ **学校教育法に基づく履修証明書**を交付

(条件)受講者登録後、所定期間中に全ての科目の受講終了

<ONE POINT>リカレントとリスキリングの違い

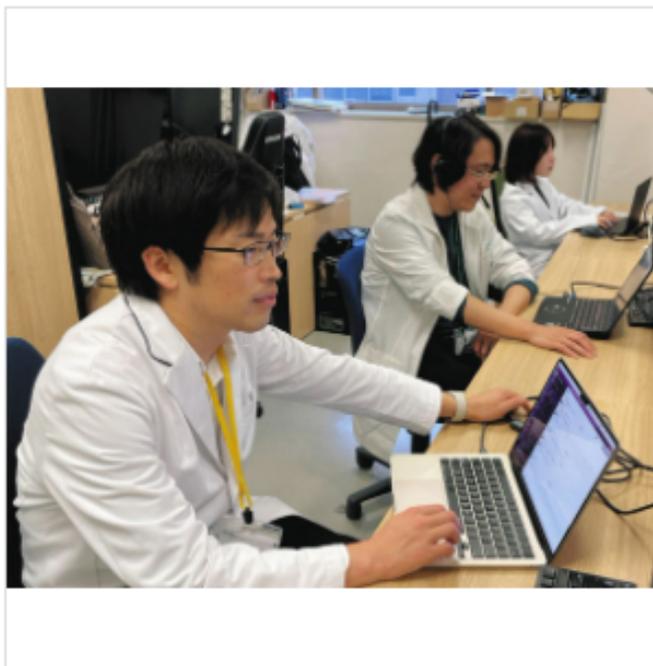
リカレント: **従業員が自主的に**スキルの向上や新しい技術の習得を、学び直しによって習得することが目的

リスキリング: **企業が自社の従業員に対して**、さまざまな方法でスキルや技術を新たに学ぶ機会を提供することが目的

🏠 > 愛知

名古屋大の「医療IT講座」社会人にも門戸 新年度から全国初の開設

2024年2月8日 05時10分 (2月8日 12時14分更新)



講座で医療ITを学ぶ医師たち。2024年度から社会人にも門戸を開く=名古屋市昭和区の名古屋大病院で（同大病院メディカルITセンター提供）

名古屋大は2024年度、会社員や行政職員など医療者以外の社会人を対象とした全国初の医療IT講座を開設する。国が医療DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進に本腰を入れる中、需要が高まる医療とITの両方が分かる人材の養成を目指す。

医療ITについては、名大が中心になって21年から医師向けの講座を開いている。その経験を生かし、社会人に門戸を開くことにした。講座名は「名古屋医療情報学プログラム」。学校教育法に基づく履修証明プログラムで、講座を修了したことを国が証明する。

計画では初年度は6月に開講する。1回の講義はオンラインで3時間。全国の専門家約40人が週1回程度、約半年間講義を行う。まず...

中日新聞

2024年2月8日

<https://www.chunichi.co.jp/article/850219>

2. NCIP概要



- ★ 対象者：医療関連職に従事している**社会人**
→ 想定メインターゲット：
医療従事者、医療関連企業の従事者



- ★ 医療情報を**多角的かつ総合的**に学ぶ場を提供
- ★ 20科目と3つの特論／概論と実践（47本の講義を予定）
 - 現場で医療情報を取り扱うために必要な内容を網羅
 - それぞれ90分のWEB講座
 - 自由な時間に受講可能(オンデマンド)

2025年度はオンラインによる双方向授業も予定



- ★ 講師はその分野のエキスパートに依頼

3. NCIP講義詳細

カリキュラム構成

プログラムの特徴

- 体系的な知識習得の機会提供
- 実務と理論の効果的な統合
- 第一線の専門家による講義
- オンデマンド形式での柔軟な学習

期待される成果

- 医療DX推進の中核人材育成
- 組織間連携の促進
- 医療の質向上への貢献
- 地域医療への貢献

領域別の詳細情報

医療情報の基盤



主な内容: データ標準化、倫理・セキュリティ

意義: 全ての医療情報活動の基礎

システムと実践



主な内容: 電子カルテ、部門システム連携

意義: 医療現場のIT化推進

データ活用



主な内容: RWD、ビッグデータ解析

意義: 医療の質向上と研究推進

組織と人材



主な内容: IT化推進体制、人材育成

意義: 持続的な発展基盤

3. NCIP講義詳細

履修項目(2024年度)

大項目	科目名	大項目	科目名
安全に取り扱うための知識	<ul style="list-style-type: none"> ★医療倫理・個人情報保護(ガイドライン) ★情報リテラシー・情報セキュリティ ★災害・BCP・バックアップ 	システムと利用者についての知識	医療IT化に取り組む体制 (CIO、専門医、医療情報技師、リスクリング) ★職種別システムとのかかわり (医療情報技師、診療情報管理士、看護師、クラーク、薬剤師、臨床工学技士)
利活用の知識・方法	診療報酬制度と医療経営 医療情報システムと医療安全 遠隔医療・地域連携システム 臨床研究と治験 RWDの利活用(電カル、学会データベース) 医療ビッグデータとその解析(DPC、PHR、レジストリ)	運用のための基礎知識	★プロジェクトマネジメント
データの内容についての知識	データの標準化と品質管理(構造化、標準マスタと管理、バリデーション) 診療録記載(コンテンツ、標準規格) 医療の標準化・最適化(クリカルパス、EBM、LHS)	これからの医療情報	★海外と日本の状況 ★医療情報システムにおけるベンダーの取り組みと医療DX ★【特論1】これからの医療情報 ★【特論2】デジタル・トランスフォーメーション(DX、IoT・ロボット) ★【特論3】医療のIT化と未来医療(意思決定支援→AI)
システムについての知識	医療情報システム総論 電子カルテと部門システム		

★印：概要のみ

2. NCIP概要

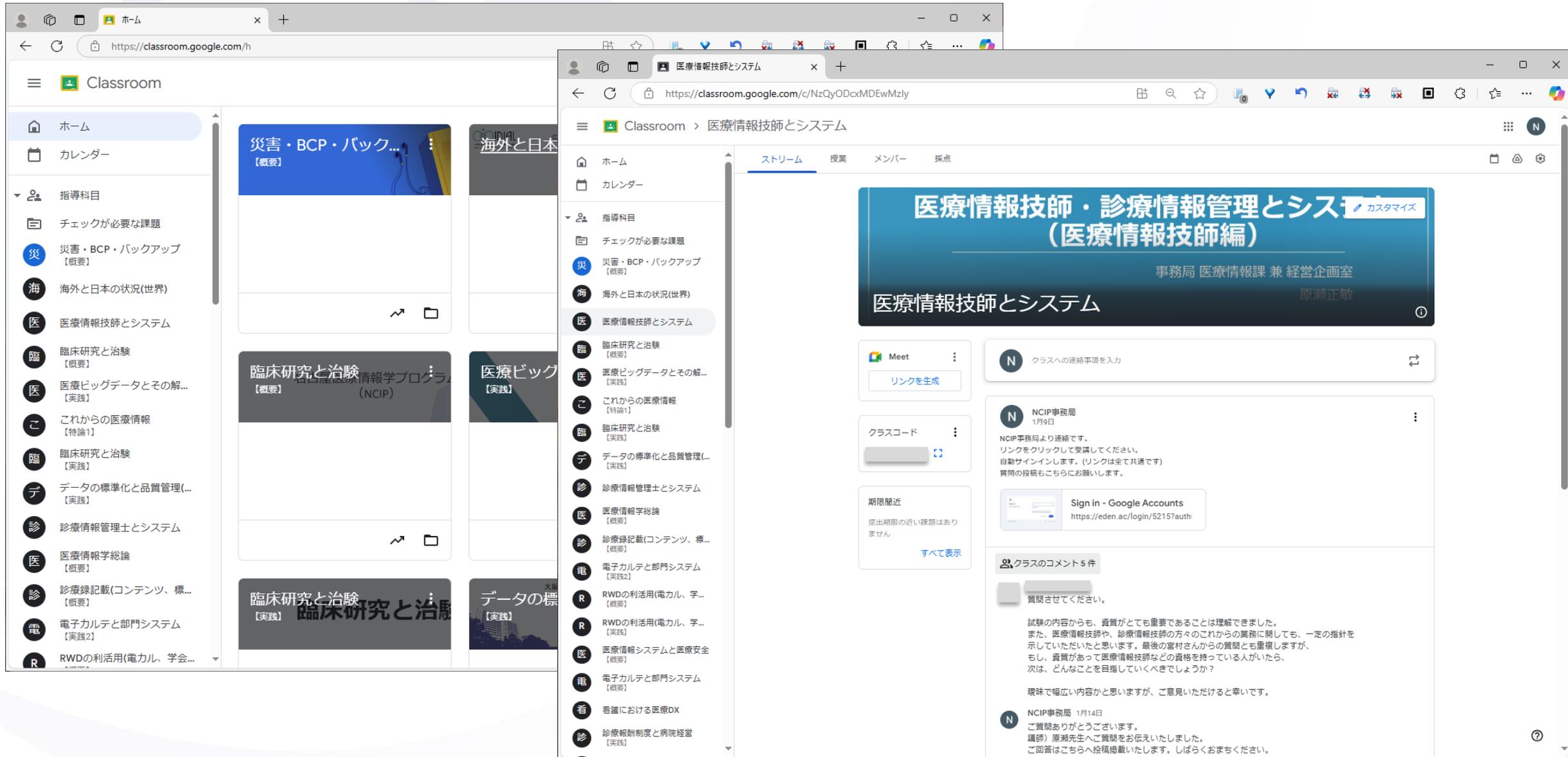
約50名の日本を代表する講師陣

2024年度の講師陣(抜粋)

講師	所属	講義名
岡垣 篤彦先生	社会医療法人蘇西厚生会松波総合病院FMDセンター長	災害・BCP・バックアップ
武田 理宏先生	大阪大学大学院医学系研究科 医療情報学教授	データの標準化と品質管理(構造化、標準マスタと管理、バリデーション)
渡邊 直先生	一般財団法人 医療情報システム開発センター	診療録記載(コンテンツ、標準規格)
副島 秀久先生	済生会熊本病院医療情報調査分析研究所長	医療の標準化・最適化
小笠原 克彦先生	北海道大学大学院保健科学研究院教授/室蘭工業大学大学院工学研究科教授	医療情報学総論
成清 哲也先生	広島国際大学 医療情報学、医療経営学	プロジェクトマネジメント
中島 直樹先生	九州大学大学院医学研究院医療情報学分野教授	RWDの利活用
吉村 健佑先生	千葉大学病院次世代医療構想センター長・特任教授	医療ビッグデータとその解析(NDB・DPCなどを例に)
森田 朗先生	東京大学名誉教授/一般社団法人次世代基盤政策研究所代表理事	【特論1】これからの医療情報①
大江 和彦先生	東京大学大学院医学系研究科社会医学専攻医療情報学分野教授	【特論1】これからの医療情報②
白鳥 義宗先生	名古屋大学医学部附属病院メディカルITセンター長	【特論2】デジタル・トランスフォーメーション(DX)
黒田 知宏先生	京都大学医学部附属病院医療情報企画部長・教授	【特論3】医療のIT化と未来医療

2. NCIP概要

Google Classroom



The image shows two overlapping browser windows displaying the Google Classroom interface. The background window shows the main course page for '医療情報技師とシステム' (Medical Information Technician and System). The foreground window shows a detailed view of the course content.

Course Title: 医療情報技師とシステム (Medical Information Technician and System)

Instructor: 事務局 医療情報課 兼 経営企画室 原瀬正敏

Course Content (Listed in the foreground window):

- 災害・BCP・バックアップ【概要】
- 海外と日本の状況(世界)
- 医療情報技師とシステム
- 臨床研究と治験【概要】
- 医療ビッグデータとその解...【実践】
- これからの医療情報【特論1】
- 臨床研究と治験【実践】
- データの標準化と品質管理...【実践】
- 診療情報管理士とシステム
- 医療情報学総論【概要】
- 診療録記載(コンテンツ、標...【概要】
- 電子カルテと部門システム【実践2】
- RWDの利活用(電カル、学...【概要】
- RWDの利活用(電カル、学...【実践】
- 医療情報システムと医療安全【概要】
- 電子カルテと部門システム【概要】
- 看護における医療DX
- 診療報酬制度と病院経営【実践】

Course Description (from foreground window):

NCIP事務局より連絡です。
リンクをクリックして受講してください。
自動サインインします。(リンクは全て共通です)
質問の投稿もこちらをお願いします。

Sign in - Google Accounts
<https://eden.ac/login/52157auth>

クラスコメント 5件

質問させていただきます。

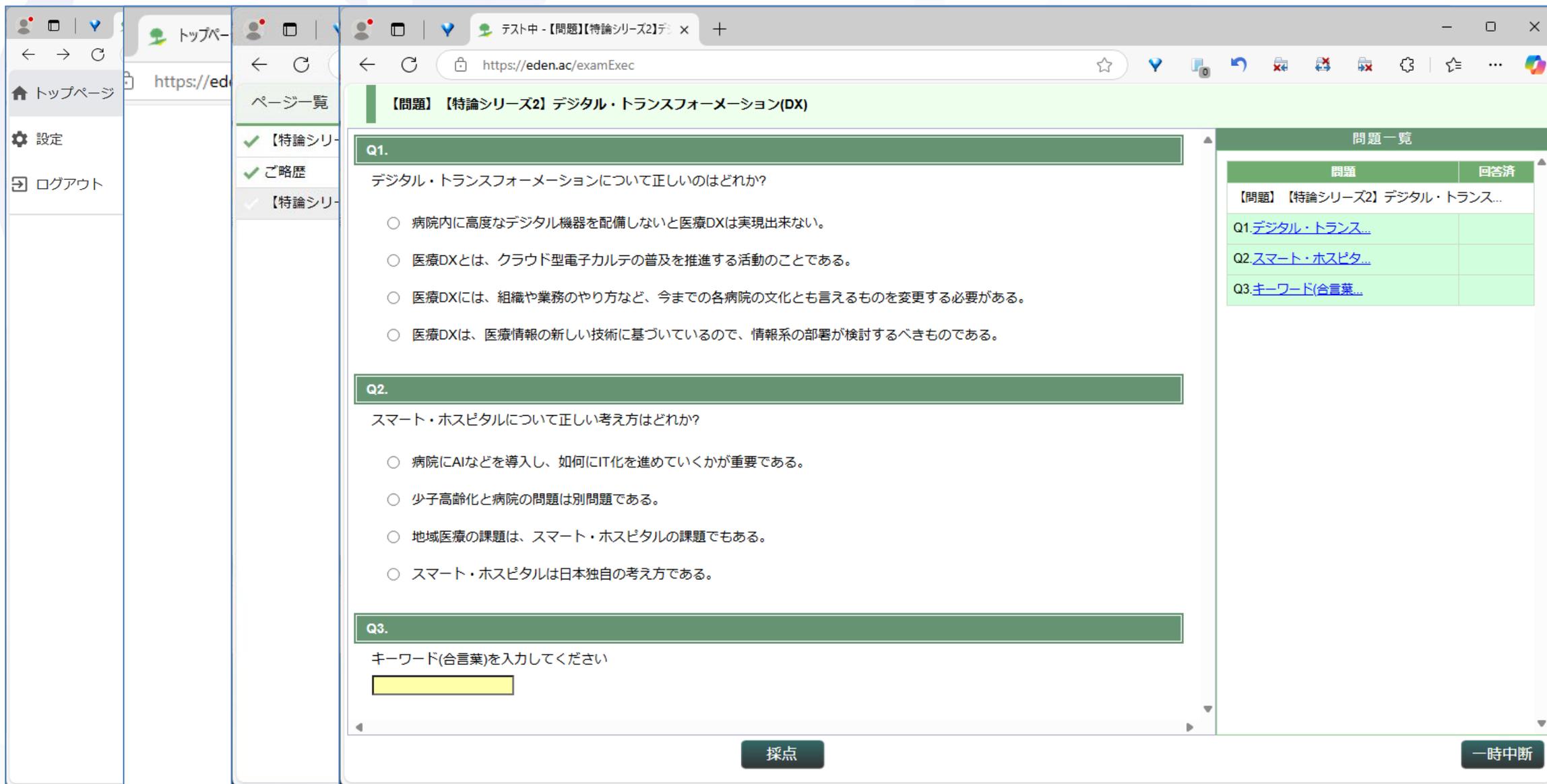
試験の内容からも、資質がとても重要であることは理解できました。また、医療情報技師や、診療情報技師の方々のこれからの業務に関しても、一定の指針を示していただいたと思います。最後の宮村さんからの質問とも重複しますが、もし、資質があって医療情報技師などの資格を持っている人がいたら、次は、どんなことを目指していくべきでしょうか？

曖昧で幅広い内容かと思いますが、ご意見いただけると幸いです。

NCIP事務局 1月14日
ご質問ありがとうございます。
講師)原瀬先生へご質問をお伝えいたしました。
ご回答はこちらへ投稿掲載いたします。しばらくおまちください。

2. NCIP概要

Eden(e-ラーニングシステム)



The screenshot displays the Edensys exam interface. The browser address bar shows <https://eden.ac/examExec>. The page title is **【問題】【特論シリーズ2】デジタル・トランスフォーメーション(DX)**. The main content area contains three questions:

Q1.
デジタル・トランスフォーメーションについて正しいのはどれか?

- 病院内に高度なデジタル機器を配備しないと医療DXは実現出来ない。
- 医療DXとは、クラウド型電子カルテの普及を推進する活動のことである。
- 医療DXには、組織や業務のやり方など、今までの各病院の文化とも言えるものを変更する必要がある。
- 医療DXは、医療情報の新しい技術に基づいているので、情報系の部署が検討するべきものである。

Q2.
スマート・ホスピタルについて正しい考え方はどれか?

- 病院にAIなどを導入し、如何にIT化を進めていくかが重要である。
- 少子高齢化と病院の問題は別問題である。
- 地域医療の課題は、スマート・ホスピタルの課題でもある。
- スマート・ホスピタルは日本独自の考え方である。

Q3.
キーワード(合言葉)を入力してください

At the bottom of the page, there are two buttons: **採点** (Mark) and **一時中断** (Pause).

On the right side, there is a sidebar titled **問題一覧** (Question List) with the following table:

問題	回答済
【問題】【特論シリーズ2】デジタル・トランス...	
Q1.デジタル・トランス...	
Q2.スマート・ホスピタ...	
Q3.キーワード(合言葉...	

3-J-5-04

第44回医療情報学連合大会 COI開示

筆頭発表者名：朝田 委津子

私が発表するこの演題について開示すべきCOIはありません。

社会人向け医療情報教育プログラムと 受講者傾向

***朝田 委津子*¹、宮村信輝*¹、岡 悦子*¹、白鳥 義宗*¹**

***¹ 名古屋大学医学部附属病院**

<NCIPで得たい知識・得させたい知識・得たかった知識>

回答者：受講者(n=22)、企業担当者(n=6)、辞退者(n=2)

項目	受講生	企業	辞退者
これからの医療情報（日本・海外の動向、DX、未来医療など）	18	5	2
情報利活用の知識・方法（制度と医療経営、遠隔医療、医療安全、RWD利用など）	15	5	1
情報を安全に取り扱うための知識（ガイドライン、情報リテラシー、BCPなど）	13	5	1
運用のための基礎知識（プロジェクトマネジメント）	13	2	1
システムについての知識（電子カルテシステムについて）	12	3	1
データの内容についての知識（クリニカルパス、データの標準化、診療録管理など）	11	2	2
システムと利用者についての知識（部門システムと利用者のかかわりなど）	8	2	1

利活用の知識の関心が高いが、そのベースとなる内容についての知識のニーズが低い



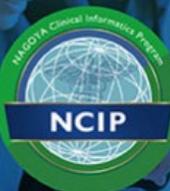
(数字は回答者数、複数回答可)

くどのような人材として活躍したいか・してほしいか

項目	受講生	企業
地域課題の解決	<ul style="list-style-type: none"> 地域のシステム人材の育成 地域医療効率化のためのIT導入 医療分野に精通した政策の企画立案実施 	<ul style="list-style-type: none"> 予防医療介護現場に先進技術を紹介導入できる人材
施設内での現場課題解決	<ul style="list-style-type: none"> IT人材の増員 臨床データ管理・利活用 現場とソリューションを結びつける 	<ul style="list-style-type: none"> IT導入案件をリードできる人材 医療従事者とシステム関係者の橋渡しができる人材
医療DXの推進	<ul style="list-style-type: none"> システムの理解と情報の活用 DX分野の商品・サービスの新規開発と活用促進 	
経営課題の解決	<ul style="list-style-type: none"> 経営の質と効率性を向上／改善 経営課題の解決に向けた支援 	
新しい技術の実装	<ul style="list-style-type: none"> 現場の技術活用を研究・社会実装 	
情報セキュリティ	<ul style="list-style-type: none"> 現場運用に沿ったセキュリティの説明 	
その他		<ul style="list-style-type: none"> 広い視野を持ち課題解決に積極的に取り組む 日本の医療に貢献できる人材

5. 2025年度開講のご案内

文部科学省の履修証明制度 (https://www.mext.go.jp/fa_menu/koutou/shoumei/) に基づくプログラムとなります。
文部科学大臣認定「職業実践力育成プログラム」(申請中) 厚生労働大臣認定「一般教育訓練給付制度認定講座」(申請中)



医療と産業界の連携で
生まれたプログラム

2025年度 名古屋医療情報学プログラム(NCIP)
受講者募集

オンデマンド
受講
一般社会人向け

社会人医療ICT人材育成コース

(リカレント/リスキングプログラム)

募集期間

2025年 3/3 月
▼
2025年 5/19 月

講義内容

基本的な医療情報の知識を体系的・網羅的に習得する講義
総履修時間：60 時間以上
(※カリキュラムは WEB ページをご覧ください)

受講料 250,000 円 / 1 人 (税込)
(企業単位の申し込み方法も御用意しています。)

対象者 大学を卒業した者で、医療分野に関わる業務に従事する者または従事する見込みの者

コース修了条件 1年間で60時間以上履修すると、コースの修了証が授与されます。

登録料 10,000 円 / 1 人 (税込)

受講方法 オンデマンド講義、e-learning (インターネット環境とNCIPが発行するGoogle アカウントが必要です。)

受講期間

2025年 7/1 火 ▶ 2026年 1/31 水

申込方法 下記URL、もしくはQRコードからお申し込みください。
<https://forms.gle/mkcvjbtqFXaFqLkv7>



お問い合わせ

名古屋大学医学部附属病院メディカルITセンター
NCIPプログラム事務局
TEL : 052-744-1977 FAX : 052-744-1916
Mail : ncip-office@med.nagoya-u.ac.jp
HP : <https://www.nu-mitc.org/lecture/general/>

後援：日本医療情報学会 (JAMI) / 一般社団法人 保健医療福祉情報システム工業会 (IAHIS) / 一般社団法人 プロジェクトマネジメント協会 (PMI) 日本支部
日本製薬工業協会 (JPMA) / 一般社団法人 医療情報システム開発センター (MEDIS-DC)

★ 名古屋医療情報学プログラム

(Nagoya Clinical Informatics Program / NCIP)

2025年度開講分については、

名大病院メディカルITセンター > 教育 > 教育(一般社会人向け)

<https://www.nu-mitc.org/lecture/general/>

にてご案内いたします。

2024年度分内容についても上記WEBサイト 下部のバナーからご覧いただけます

5. 2025年度開講のご案内

文部科学省 職業実践力育成プログラム(BP)認定



文部科学大臣認定

Brush up Program
for professional

職業実践力育成プログラム

Brush up Program BP
for professional

教育再生実行会議「学び続ける」社会, 全員参加型社会, 地方創生を実現する教育の在り方について(第六次提言)」(平成27年3月)を受けて, 大学・大学院・短期大学・高等専門学校におけるプログラムの受講を通じた社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会の拡大を目的として, 大学等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムを「職業実践力育成プログラム」(BP)として文部科学大臣が認定することとしました。

これにより、

1. 社会人の学び直す選択肢の可視化、
2. 大学等におけるプログラムの魅力向上、
3. 企業等の理解増進を図り、厚生労働省の教育訓練給付制度とも連携し、社会人の学び直しを推進します。

文部科学省 職業実践力育成プログラム(BP)認定制度について
https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/bp/index.htm

5. 2025年度開講のご案内

厚生労働省 教育訓練給付制度指定(申請中)

受講者や企業に対し、受講料等の一部が支給されます

職業実践力育成プログラム（BP）のうち、大学等が厚生労働省の教育訓練給付の講座指定を希望し、その指定基準を満たすとして厚生労働大臣の指定を受けたものについては、以下の制度を利用することができます。

（BPに認定されている全ての課程が教育訓練給付の対象講座ではありません。）

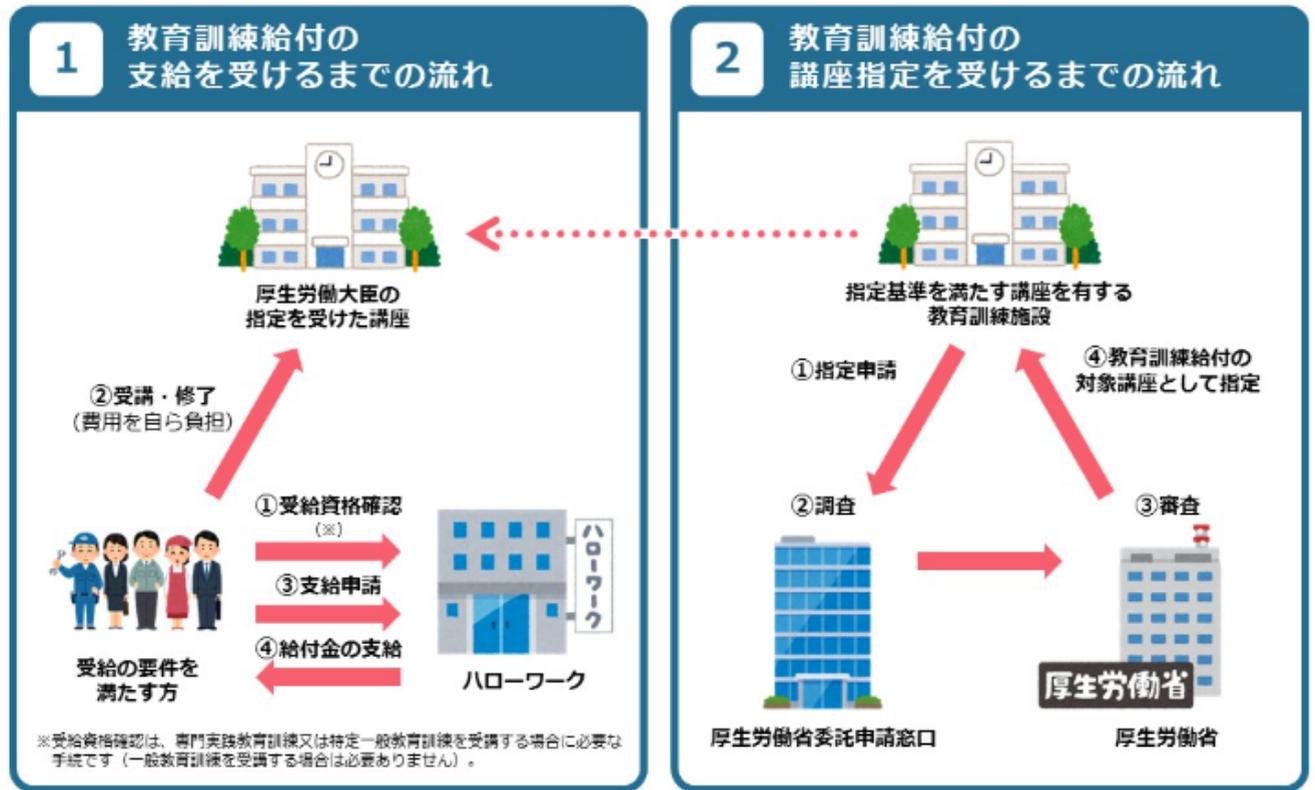
厚生労働省-教育訓練給付制度

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/jinzaikaihatsu/kyouiku.html

教育訓練給付制度とは

教育訓練給付制度とは、働く方々の主体的な能力開発やキャリア形成を支援し、雇用の安定と就職の促進を図ることを目的として、厚生労働大臣が指定する教育訓練を修了した際に、受講費用の一部が支給されるものです。

教育訓練給付制度の概要



5. 2025年度開講のご案内

デジタル修了証(オープンバッジ)

※2024年度NCIP履修修了者より発行見込み(現在学内申請中)

◆ オープンバッジについて

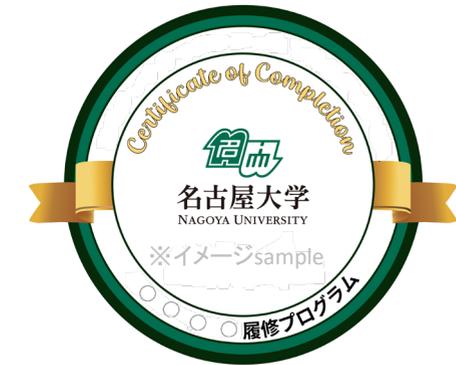
知識・スキル・経験のデジタル証明としてオープンバッジが大きく注目を集めています。

欧米を中心に大学や資格認定団体、グローバルIT企業が多くオープンバッジを発行しており、日本でもさまざまな団体からの発行が始まりました。

国際標準規格としてのオープンバッジは、取得した資格や学習内容を目に見える形にし、受検者や受講者を増やすデジタルマーケティングツールにもなります。

当財団は、日本ならびにアジア地域において、誰もが安心して便利に利用できるようブロックチェーンを組み込んだオープンバッジの発行環境をクラウドサービスとして提供し、普及と質保証を行っています。

一般財団法人オープンバッジ・ネットワーク
<https://www.openbadge.or.jp/about-ob/>



紙の証明書とは異なり、改ざんや偽造が不可能で信頼性が高く、バッジ画像に埋め込まれた「メタデータ」で内容を証明。

発行されたオープンバッジを自分専用の「オープンバッジウォレット」で受けとり、集め、一元管理。

X(Twitter)やFacebook、LinkedinなどSNSで公開、メール署名や履歴書に貼り自身の知識やスキル、強みをアピール。

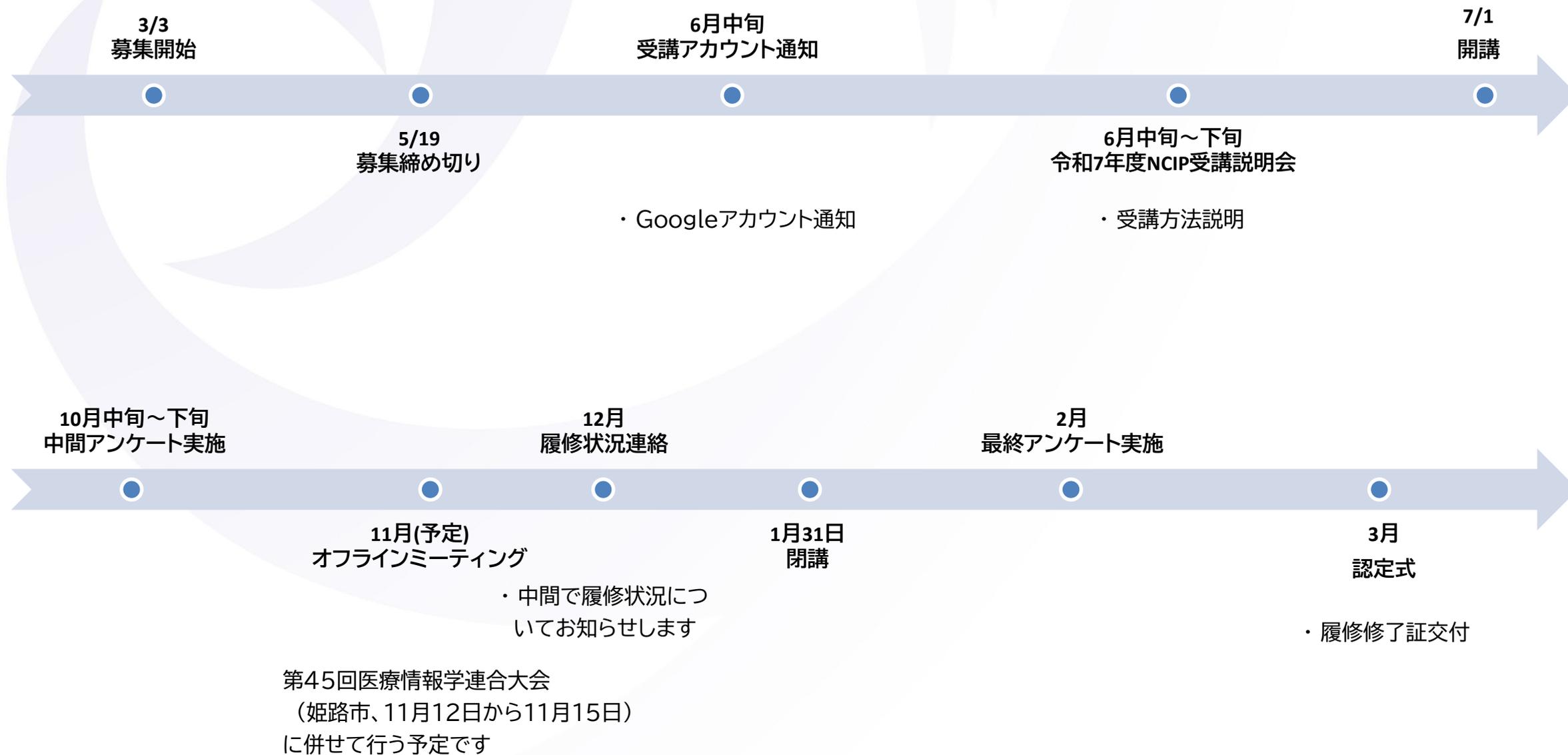
6. 修了認定について

単位認定条件

- ・履修完了時間が60時間以上(履修完了40コマ以上)
- ・理解度テスト完了
- ・動画中のキーワード

名古屋大学の教授会にて単位認定審査します

7. スケジュール



8. 質疑応答



ご質問がありましたらよろしくお願ひします。
チャットへの投稿でもお受けします。